

第25回特別企画展

濃尾地震と震災報道

2018年10月10日(水)～2019年1月18日(金)

名古屋大学減災館

〒464-8601

名古屋市千種区不老町

Phone 052-789-3468 Fax 052-789-5023

開館時間 13:00～16:00 (入場は15:30まで)

休館日 日・月曜日、祝日、第2・4火曜日

※行事等により、上記以外で急遽閉館になる場合がございます

※最新の情報は下記URLでご確認ください

<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/>

濃尾地震にちなんだ、
災害を今に伝える史料も
ご紹介します!

◀監修：浦谷裕明(うらたに・ひろあき)
名古屋大学減災連携研究センター助教

▼監修：西澤泰彦(にしざわ・やすひこ)
名古屋大学環境学研究科教授



濃尾地震で2階部分が崩壊した名古屋郵便電信局 [宮内庁書陵部蔵]



濃尾地震で大きくたぐいれた枇杷島橋 (John Milne and W. K. Burton, The Great Earthquake in Japan, 1891. [名古屋大学減災連携研究センター蔵])

濃尾地震と震災報道

濃尾地震で被災した東海道本線長良川鉄橋 (John Milne and W. K. Burton, The Great Earthquake in Japan, 1891. [名古屋大学減災連携研究センター蔵])

1891(明治24)に起きた濃尾地震は、その被害の大きさから、明治政府が直面した最大の災害でした。しかし、今日に比べて情報伝達手段が発達した当時、被害の全容を人々が知るには時間がかかりました。特に、被害の大きかった岐阜県美濃地方や愛知県尾張地方では、交通手段や通信手段が途絶えたため、地震直後は、被害の把握と被害情報の伝達に手間取り、また、断片的な情報が流れていました。しかし、甚大な被害の状況が明らかになると、それは海外からも注目され、海外でも報道されました。これには、地球規模で整備されていた電信が情報伝達の役割を担いました。

そこで、今回は、濃尾地震直後の震災報道に着目し、報道内容を検討しながら、どのような被害が注目され、それが、どのように報じられたかについて、当時の新聞、雑誌の記事内容を基に考えてみることにします。また、報道とは別の視点で被災地を訪れた専門家が何に目を向けたかについても考えてみることにします。

スペシャルギャラリートーク

10/10(水)
11/14(水)

13:30～

減災館2階にて
開催します!